

## 令和元年度第2回秋田市公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時 令和元年7月30日 火曜日 10時30分から12時

2 会 場 秋田市役所5階 第2委員会室

3 出席者

### 【委員】

高橋 誠記 委員長

鏡 隆千代 委員

村國 聡 委員

吉岡 順子 委員

### 【公立大学法人秋田公立美術大学】

霜鳥理事長兼学長、堀井副理事長、毛内理事、尾登理事、北嶋事務局長、柳田総務課長、田村学生課長、畠山企画課長、大淵総務課長補佐、工藤総務課副参事、今野学生課副参事、高嶋企画課副参事、佐藤企画課主席主査

### 【設立者・評価委員会事務局】

竹内企画財政部長、工藤企画財政部次長、堀井参事、半田主席主査

4 発言録

#### 次第1 開会

事務局

ただいまから令和元年度第2回秋田市公立大学法人評価委員会を開会する。

本日は、5名中4名の委員が出席しており、本委員会条例に規定されている定足数を満たしていることを報告する。

議事の進行については、議長である高橋委員長にお願いする。

#### 次第2 議事(1) 公立大学法人秋田公立美術大学平成30年度業務実績評価書について

原案のとおり承認となった。

(本委員会運営要綱により非公開)

#### 次第2 議事(2) 公立大学法人秋田公立美術大学第1期中期目標期間事業実績について

委員長

公立大学法人秋田公立美術大学の第1期中期目標期間における業務実績に対し、質疑や意見を頂く。

公立大学法人秋田公立美術大学が資料を説明した後、質疑応答、意見聴取に入る。

公立大学法人	（「資料２－１」から「資料２－３」、「資料３」について説明）
委員長	それでは質疑応答、意見聴取する。
委員	連番５の学内公募の状況について、平成３０年度では公募８件に対し、採用が４件となっているが、全ての公募に応募があったのか。
公立大学法人	全ての公募に応募があった。
委員	連番４１の大学祭への支援額について、年々、増加している理由はなにか。
公立大学法人	平成２５年度は１年生しか在籍していなかったが、年々、学生数が増え、大学祭の規模が大きくなったことによる。
委員	連番４３の評価指数について、第１期および第２期中期計画においても進路決定率を１００％としているが、そのように設定しなければならないものなのか。
公立大学法人	進路決定率については、昨年度、第２期中期計画を策定する際にも様々議論したが、大学として目指すべき目標的な指標として、志願者ベースの進路決定率を１００％と設定した。
委員	進路決定率について、評価指標は１００％としているが、平成３０年度の実績が８７．９％であってもⅢ（中期計画を十分に実施している。）と自己評価している。 Ⅲと評価される範囲がどこまでなのか、判断が困難であると思う。
委員	連番４６について、公立大学法人が把握している査読付論文の掲載数は、教員の自己申告による件数のため業務実績に掲載していないと説明があったが、今後、どのように件数を把握するのか。
公立大学法人	紀要のほか、教員評価の申告内容等から件数を把握していく。
委員	連番６３の産学官連携事業については、企業の経営者等から貴学の協力を感謝する声を聞く機会が少なからずあることから、積極的に取り組んでいると思う。
委員	連番７５の自己評価について、業務実績は評価指数である海外における作品発表等３件以上を上回っているが、自己評価はⅣ（年度計画を上回って実施している。）ではなく、Ⅲ（中期計画を十分に実施している。）でよいのか。
公立大学法人	中期計画では、評価指数のほか、研究活動の支援や海外の大学教員等の

受け入れについて記載しており、それらが実施できたかどうかも考慮し、Ⅲ（中期計画を十分に実施している。）と評価した。

委員 非常に多くの海外における作品発表を行っていることから、Ⅳ（年度計画を上回って実施している。）と評価してよいと思う。

委員 資料2-2において、目標の設定が、中期計画期間の6年間を通した目標なのか、最終年度の目標なのか、各年度の目標なのか明らかになっていない。

また、評価指標がある計画について、業務実績のどの部分と比較し、自己評価したのか明らかでない。

記載の方法を検討してほしい。

委員 連番75の評価指数「海外における作品発表等3件以上」が、中期計画期間を通した目標設定とすると、約40倍の実績となっている。

それにも関わらず、自己評価をⅢ（中期計画を十分に実施している。）としているのは、評価指数「海外における作品発表等3件以上」に対応する件数が、中期計画期間を通した件数ではなく、最終年度等の件数で自己評価しているのではないかと感じる。

評価指数「海外における作品発表等3件以上」に対応する実績件数を、どのような観点でカウントしたのかがわからないと評価のしようがないと思う。

委員 業務実績について、評価指標に対する件数はこのとおりであったというような記載でも支障はないと思うがどうか。

記載の仕方を検討してほしい。

公立大学法人 検討したい。

委員 業務実績を評価指数と比較し、どのような理由でⅣ（年度計画を上回って実施している。）またはⅢ（中期計画を十分に実施している。）と自己評価としたのか。

評価のベースとなる考え方を整理してほしい。

委員 連番75の評価指数「海外における作品発表等3件以上」については、開学当初に想定した件数と現在の業務実績がかい離していると感じるが、評価指数を上回る業務実績となっているためⅣ（中期計画を上回って実施している。）と評価してよいと思う。

公立大学法人 開学当初は、4年制大学としての実績が無い状況であったことから、評価指数を設定することは、困難なことであったと思う。

公立大学法人 評価指数が現在の業務実績とかい離しているケースも見られるが、業務実績の件数は、評価指数を設定した当時から現在まで、同じ基準で集計し

ている。

- 委員 集計が適切であり、評価指数に対し実績が上回っていることから、評価としてはⅣ（中期計画を上回って実施している。）にしなければ、何に基づき、どのように自己評価しているのかわからない。
- 委員 連番31、46、63の評価指数に対する業務実績の記載についても、6年間の通算の目標であるかどうかわかりにくい。  
評価指数と実績を対比した件数の記載を検討してほしい。
- 公立大学法人 中期計画を通した目標については、年度ベースの件数等を参考として記載するのがよいと思う。
- 委員 中期計画を通した目標については、年度毎の件数の記載に加え、6年間の総計の記載してほしい。
- 公立大学法人 連番43の評価指数について補足説明したい。  
評価指数を進路決定率100%としているが、美術系大学では、就職できなければ創作活動を行う等、卒業後の進路が曖昧な学生が多い。  
また、工房での活動を希望する場合、工房の定員に空きができるまで待たなければならないケースがあり、卒業年度内に進路決定できず、卒業後に進路決定することがある。  
このように美術系大学特有の現状があるものの、本学としては理想的な指標として進路決定率は100%とした。
- 委員 美術系大学には、進路決定せず卒業し、独自に活動を行う者もいるが、進路決定率100%を目標として掲げていることを理解している。
- 委員 進路決定率の評価指数については、第2期中期計画策定時に考え方を整理したと理解している。
- 委員 連番48について、退任記念展は平成28年度のみ開催か。
- 公立大学法人 そのとおりである。
- 公立大学法人 平成28年度は4学年の学生が在籍した本学完成年度であったことから、本学主催で退任する教員の作品展を開催することとなった。
- 委員 資料3の連番71について、デッサンスクールの延べ参加人数が記載されているが、同一人物の参加が多いのか。
- 公立大学法人 複数回開催しているため、同一人物の参加は少なくないが、アクセスがよい秋田駅前にあるサテライトセンターで開催していることから、参加者数は増えてきている。

公立大学法人	資料3に記載した延べ参加者数は、秋田市内で開催したデッサンスクールのものである。 このような事業は県内外で行っている。
委員	連番31について、学外研修参加実績が記載されているが、美術に関連する内容か。
公立大学法人	記載した研修は、美術に限らず教育の質の向上を目的としたものである。
委員	連番41について、学生会への助成が平成28年度以降、廃止したのか。大学祭への助成額が増えたことに関係するのか。
公立大学法人	大学祭は学生が主催していることから、平成28年度以降、学生会への助成額は大学祭への助成額に含んでいる。
委員	そのとおりとすると、平成28年度以降の学生会への助成は大学祭への使用に限られると解釈されるのではないか。 記載内容を検討してほしい。
委員	連番73について、交流協定締結校は美術系の大学か。
公立大学法人	台南応用科技大学とバンドン工科大学はデザイン系の大学である。 リンショピン大学理工学部は、理工学部に属するマルムステン家具研究科である。
公立大学法人	締結後の交流が内容や質が伴ったものとしていたいことから、交流協定締結は慎重に取り組んでいる。
委員	海外では美術大学という名称は一般的でないのか。
公立大学法人	美術大学の名称を使用している大学はあるが、美術系大学の中には理工系を軸に研究し、大学名も理工系のものを使用しているケースもあることから、大学名からは美術系大学とわかりにくいことがある。
委員	連番112について、業務実績にマニュアルを策定しただけでなく、見直しを行った旨を記載していることから、中期計画にガイドライン等を「策定する。」だけでなく、マニュアル等を実態に即した見直しや更新する点についても中期計画に記載があればよかったと思う。
公立大学法人	平成25年度に地方独立行政法人となり、会計制度が大きく変わる等、ゼロからの出発であったため、中期計画を策定するにあたっては、体制を整える観点が強かったと記憶している。 ご指摘のとおり策定していれば、より良い計画であったと思う。

委員	<p>連番16について、中期計画策定時は、記載のとおり業務実績で良かったと思うが、教学マネジメント（※1）および3ポリシー（※2）を策定し、それらに従った教育課程を組み、授業科目を構成していくことが求められている。</p> <p>教学マネジメント等に基づき、体系的な教育課程や授業科目間の関連性について、教員間の情報共有する取組を行っているのであれば、業務実績に、個別の取組だけでなく、総論的な取組の記載も検討してほしい。</p> <p>※1 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営。また、その確立に当たっては、学長のリーダーシップの下で、3つポリシーに基づく体系的で組織的な教育の展開、その成果の点検・評価を行い、教育および学修の質の向上に向けた不断の改善に取り組むこと</p> <p>※2 「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」、「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」のこと</p>
委員	<p>連番43について、大学院修了生の進路決定率は参考で記載したと思われるため、連番30と同様の記載となるはず。</p> <p>記載を工夫してほしい。</p>
委員	<p>連番5について、公募は外部から貴学に依頼があり、それを学生に周知する仕組みか。</p>
公立大学法人	<p>本学は、NPO法人アーツセンターあきたに企業等からの依頼に対する窓口業務等を委託している。</p> <p>同法人が企業等からの依頼内容をヒアリングし、本学が対応できると判断された後、学生に対し周知するという流れになっている。</p>
委員	<p>教員が受けることもあるのか。</p>
公立大学法人	<p>そのようなケースもある。</p>
委員	<p>4件採用されなかった理由はなにか。</p> <p>また、学生が応募する際、教員がサポートするのか。</p>
公立大学法人	<p>学生が応募するにあたり、教員がサポートするケースもある。</p> <p>採用されなかった理由として、学生の応募作品が企業等のニーズに応えられなかったことが挙げられる。</p>
委員	<p>連番46について、条件付きでも査読付論文の件数は出すべきだと思うので検討してほしい。</p>
委員	<p>連番47について、教員の作品等を公開すること自体が研究成果の社会</p>

還元につながった例を教えてください。

公立大学法人

例として、景観デザイン専攻では、教員の研究論文の公開が都市計画や景観への提案となり得ること、また、ものづくり専攻では、陶磁器等を創作する際に表面にかける釉薬の公開などが、研究成果の社会還元と考えている。

委員

連番84について、教員評価は、自己評価のみでは、任期付き教員の再任の可否は判断できないと思う。

業務実績全体に言えることだが、客観的、いわゆる第三者評価的なものにしていかなければ判断ができないと考えるがいかがか。

公立大学法人

そのとおりと考えている。

美術系大学であることから、すべてが数値化できるとは限らないが、第1期中期計画期間に客観的な評価システムを試行したことを踏まえ、可能な限り数値化し、見える化を検討している。

委員

自己評価については、数値化し、見える化すれば、客観評価が可能という考えであることを理解した。

委員

連番13について、数値化という点では、資料3に教員職員免許状等の取得実績を記載しているが、可能であれば業務実績に、教職課程等を置いたことだけでなく取得実績を記載し、教職課程等を置いたことによる効果を見える化すればよいと思う。

連番110、111についても、可能であれば、研修回数、相談人数等を記載して数値化し、見える化してはどうか。

委員

貴学の取組が県外でも報道され、注目を集められるよう努めてほしい。

委員長

本日の意見等については、評価委員会事務局で集約し、次回の評価委員会で確認できるよう願います。

議事が終了したので、進行を評価委員会事務局にお返しする。

次第3 その他

事務局

(今後の予定を説明)

次第4 閉会

事務局

令和元年度第2回秋田市公立大学法人評価委員会を閉会する。